

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2018年3月28日(水)

報告番号：甲・乙 第	号	氏名： 大高 純	
論文審査 担当者	主査 教授 内野 博之 印	副査	教授 印
		副査	教授 印
<p>審査論文の題目： Assessment of renal cyst size with abdominal aortic dilatation in non-aneurysmal subjects (非動脈瘤患者における腎のう胞径と腹部大動脈拡張の関連)</p> <p>著 者： Jun Otaka, Atsushi Kurata, Shigeru Inoue, Shin-ichiro Ohno, Jinho Park, Mana Yoshimura</p> <p>掲載誌： Experimental & Clinical Cardiology Volume 20, Issue 8 (2014)</p>			
<p>論文要旨：</p> <p>腎動脈下大動脈径は大動脈瘤の拡大や心疾患の進展におけるマーカーとして注目されてきた。本研究では、過去の剖検より腎囊胞の存在する患者においては大動脈拡張や腎基底膜 type IV collagen の異常が指摘されていたことから大動脈径と腎囊胞には何らかの関係があると仮説を立て腹部大動脈瘤を有さない正常被験者における大動脈拡張に対する腎囊胞の関係を検討した。腹部 CT 検査を受けた 200 名を対象に腎囊胞の存在、数と直径のほかに腎動脈下における大動脈直径、石灰化度を測定した。また、喫煙歴、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症における年齢、性別と動脈硬化症の危険因子と腎囊胞の有無や個数、その最大径と大動脈直径との関係を画像的に解析した。さらに、男性と女性、若者と高齢者、大動脈最大径の 18mm 以上(larger)と以下(smaller)に分けて検討した結果、大動脈最大径、腎囊胞の数と最大直径、高血圧の各因子は男性、加齢、larger 群において有意に高い値を示すと同時に正の相関を示した。段階的重回帰分析からは、腎囊胞の最大径が大きいこと、高血圧と加齢が大動脈径が大きいことと独立して関連していることが明らかにされた。</p>			
<p>審査過程：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の背景について適切な発表がなされた。 2. 腎囊胞の特徴について明解な説明がされた。 3. 統計処理に対する質問に対して明解な説明がされた。 4. 高血圧、糖尿病を有する患者の定義に対して明解な説明がされた。 5. 腎囊胞と大動脈拡張に対するメカニズムについて明解な説明がされた。 6. 本研究の応用に対して明解な説明がされた。 			
<p>価値判定：</p> <p>本研究では、過去の剖検より大動脈径と腎囊胞には何らかの関係があると仮説を立て、腹部大動脈瘤を有さない正常被験者における大動脈拡張に対する腎囊胞の影響について検討をした。腎囊胞の有無や個数、その最大径が大きいことは将来の大動脈径拡大を予見できる可能性を示唆し、臨床に貢献できる可能性が高い研究と考え学位論文としての価値を認める。</p>			